

平成28年度 檀原市環境審議会会議録

日 時 : 平成29年2月17日(金) 午後2時00分～3時30分

場 所 : 檀原市役所北館2階 大会議室

出席委員 : 久委員、西村委員、上田委員、小西委員、米田委員、梅本委員、槇村委員、
森本委員、遊津委員

欠席委員 : 諫原委員

事務局 : 北嶋部長、塩野副部長(環境づくり部)
井上課長、広瀬課長補佐、浅田係長、大塚主査(環境衛生課)

生涯学習部 : 加藤副部長
木村館長、井上統括調整員(昆虫館)

傍聴人 : なし

議 題 : 1. 檀原市環境総合計画について
2. 生物多様性飛鳥地域戦略(素案)について

【事務局：広瀬】

檀原市環境衛生課長補佐の広瀬でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。審議会を始める前に少しお知らせをさせていただきます。

まず始めに、檀原市環境審議会は会長が招集することになっておりますが、今期の会長・副会長が選出されておりましたので、前会長が代理で召集しておりますのでご理解いただけますようお願いいたします。

檀原市環境総合計画の策定以降、平成25年度から平成27年度までにこの環境審議会委員の方々に進捗状況を報告し、ご意見をいただきました。その都度ご足労をかけておりますところで、今回もよろしくお願ひいたします。

1名の方が来られておりませんが、檀原市環境審議会規則により、本審議会が成立することをご報告いたします。

本審議会は平成27年度実施分の施策に対する評価をしていただく場となっており、本来であれば年度当初に開催すべきところを私どもの不手際により、このような時期となってしまったことをお詫び申し上げます。

開催にあたりまして、お手元に置いております資料の確認をして頂きたいと思ひます。

(資料の確認)

続きまして、皆様方にお願ひがございます。

当審議会の議事録作成のためICレコーダーにて録音させていただいております。また、情報公開の原則によりまして、傍聴の自由を認めていることが通例となっております。本日のご案内の

際にもお断りさせていただいておりますが、「樫原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱」により、審議会の開催を市ホームページにおいて周知し、希望者の傍聴を認めております。

なお、個人に関する情報や、法人その他の団体で個人の競争上の地位、財産権その他正当な利益を害する恐れのある場合、率直な意見交換もしくは意思決定の中立性が損なわれる恐れのある場合は、皆様方に諮りまして非公開とする手続きをとりたいと思います。そのようなことをご了解願ひまして、進めて参りたいと思いますので、皆様よろしくお願ひいたします。

また、記録用の写真を撮影させていただきたいと考えておりますので、あわせてご了承いただきたいと思ひます。

◎開会

【事務局：広瀬】

定刻になりましたので、ただ今より、平成 28 年度樫原市環境審議会を開催させていただきます。まず始めに委員の皆様をご紹介いたします。

私の向かって右側奥から

遊津委員でございます。上田委員でございます。小西委員でございます。

米田委員でございます。梅本委員でございます。

続きまして左側奥から

久委員でございます。榎村委員でございます。森本委員でございます。

西村委員でございます。

皆様におかれましては、今期の樫原市環境審議会委員をお受けいただきまして、誠にありがとうございます。委員は 2 年間の任期となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

引き続きまして事務局を紹介いたします。

環境づくり部長の北嶋でございます。副部長の塩野でございます。

環境衛生課長の井上でございます。温暖化対策係長の浅田でございます。

主査の大塚でございます。

関係部署として、

生涯学習部副部長の加藤でございます。昆虫館長の木村でございます。

昆虫館統括調整員の井上でございます。

以上事務局でございます。よろしくお願ひいたします。

樫原市環境審議会規則第 3 条に会長は委員の互選により選出し、副会長は委員の中から会長が指名するとありますが、現在会長が選出されておられません。委員のみなさまには会長の選出をお願ひしたいと思ひますが、委員の皆様いかがでしょうか。

【小西委員】

久委員が良いと思います。

【事務局：広瀬】

ただいま、小西委員から久委員を会長にご推薦ありましたが、審議会会長に久委員にご就任して頂いてよろしいでしょうか。

【委員】

意義なし。

【事務局：広瀬】

それでは、久会長よろしくお願いいいたします。
引き続き、副会長のご指名を会長からお願いいいたします。

【久会長】

遊津委員にお願いしたいと思います。

【事務局：広瀬】

規則第4条には会長が審議会の議長となると記載がありまして、会長副会長にはお席の移動をお願いいたします。それでは、お手元の次第に従いまして、ここからは環境審議会の会長であります久会長どうかよろしくお願いい申し上げます。

【久会長】

ご推薦でありますので、皆様のお力を借りながら今年度の環境審議会を始めさせていただきます。それではお手元の次第に添って、まずは2番の櫃原市環境総合計画につきまして、進めてまいりたいと思います。これは、毎年進捗管理ということで、皆様に見ていただきまして、様々なご意見を賜っております。それでは、まずは事務局の方から説明をお願いします。

【事務局：浅田】

■基本目標を実現するための主要施策の取組状況について（資料1・2・3）

■市民協働プロジェクトの取組について（資料4）

上記資料の説明

【久会長】

ありがとうございました。
ただいまのご報告につきまして、何かご質問ありますでしょうか。
評価と共に、これからのことも言っていただければ参考になるかなと思います。

【西村委員】

相対的に見せていただいたら、頑張って進めていただいていると思います。家庭用のごみというのは、昨年も伺ったと思いますが、減量傾向なのでしょうか。

【事務局：塩野】

環境づくり部の副部長をやっておりますが、環境企画課の課長を兼務しております。クリーンセンターで一般の家庭ごみと事業系の一般廃棄物について処理をしております。その中で、家庭から出るごみを業務課が収集しています。実績値になりますが、平成 27 年度の収集量は 21,878.78 t で平成 26 年度が 22,090.14 t となっており、多少ではありますが、前年度と比べるとごみは減量化されていることとなります。

市域の全体から言いますと、家庭ごみと事業所から出るごみのトータルした量につきましても、やはり若干ではございますが、減少傾向にあると実績値からも言えます。

【西村委員】

家庭から出るごみと家庭から出る排水が、やっぱり一番川などを汚す原因となっていると聞いたことがあります。個人的なことですが、母の介護が必要ですので、大人用のオムツを、いつもすごい量を家庭から申し訳ないなと思いながら出してしまっています。たぶん、私だけじゃなく、そういった家庭環境の方は多いと思います。当然、施設ではものすごい量になっているのではないかと考えています。

そういったことをこの頃考えていまして、高齢化も進んでいるので、テレビでも大人用のオムツの CM が普通に流れているし、元気な方も履いておられる方もいれば、結構なごみの量になるのではないかと考えていて、お伺いさせていただきました。

もう一つは、以前ニュースを見て思ったのですが、節分の恵方巻きが翌日にはものすごい量が廃棄されていると、ネットでも話題になっていました。確かに、スーパーでもコンビニでもどこでもたくさん陳列されていて、売り切れるのかなと思っていたんですけど、あの廃棄量となると、すごいんじゃないかと思っていました。最近、そういったごみの排出ということで、個人的に感じていたので審議会でお話させていただきました。啓発等で抑えられるものと、やっぱり必要なものとの線引きはなかなか難しいのかなと思っているのですが、でも今お伺いしたら、減少傾向であるというのは、やっぱりそれぞれ気をつけられているのかなとか啓発されているのかなと思います。

【久会長】

ありがとうございます。先ほどもご指摘いただきました通り、ごみと水というのは毎日出てしまうものなので、その辺りから意識を高めていただくことによって、他のところにも意識が向かうのかなと思います。

ちょっと樫原から離れてしまうのですが、先ほどお話がありました恵方巻きのようなイベントがあると、その後は必ずごみが出てしまいます。10 月末のハロウィンイベントで最近全国的にハ

ロウィンパーティーが盛んになっていますけど、東京の渋谷にたくさん人が集まって、マナーの問題やごみの問題が非常に大きくなっていました。しかし、昨年の渋谷のハロウィンパーティーでは、市民グループが動いて『できるだけごみを出さない』という運動をされました。ついては、参加者にまず、ごみの袋を渡して、ごみは持ち帰るという PR をしていただいたり、率先的に動いてくださる市民グループが出てきました。そういう意味では樫原も様々なイベントを開催されていると思いますが、その中で出てくるごみを少しでも減らすような『ごみゼロイベント』化に向けて、市民グループに頑張ってもらいたいような運動をしていただければなと思います。

ちなみに、私も同じようなものにお手伝いさせていただいているのですが、大阪の天神祭をできるだけごみを出さない祭りにしようではないかというのですが、かなり手ごわい相手ですが、先行してやっていただいているのが京都の祇園祭のごみを減らす運動を、市民グループを含めてやっているところです。やはりイベントなどの楽しいことには、必ずごみが出ますので、そのごみを減らしていくというのが良いのではないかと思います。

他に何か意見等はございますか。

【西村委員】

今、先生がお話されていて、メモしてきたことを思い出したんですが、食品ロスのお話ですが、お店に何か食べに行った時に持ち帰り運動をされている市があるとお伺いしたことがあります。松本市や北九州市などで、食品ロスの削減の取組みをされているというのをテレビで特集されているのを観ました。その他にも、会長がお話されていたように京都でも取組がされているみたいです。家庭から出る食品も手付かずのもの、賞味期限切れが2割もあると言われています。紹介されていたのが『サルベージパーティー』というもので、冷蔵庫の余り物を、子ども食堂をされているような福祉団体に寄付されたり、そういう取組みをされているとのことでした。あとは、スーパーマーケット等の業者側の取組みで、消費期限が伸びる特殊な加工をしているパッケージというのも紹介されていました。そういった特集を見ていて思うのですが、家庭から出るゴミを減らす啓発をされていってはどうかと思います。

【久会長】

ありがとうございます。今のお話は、どちらかというと飲食店や販売店等の業者さんとの協働ですね。そういうことも必要になります。それこそ、樫原市地球温暖化対策地域協議会には色々な団体さんや企業が集まっておられますので、二酸化炭素の排出削減だけでなく、それを踏まえて一緒にできる環境活動を考えていけたら良いのではないかと思います。

【事務局：塩野】

西村委員の発言にもありましたが、まずは『出さない』取組みが重要です。国も講演をしております。市としても、そういった講演を聞きながら、取組まないといけないと思います。スーパー等から出てくる消費期限の切れたような食品をそのままゴミに出されて焼却してしまえば、CO₂もたくさん出てしまうので、食品のリサイクルというのが全国的に普及しています。魚や

野菜というのは家畜のエサや草花の肥料などにリサイクルされていく企業というのも多くなっています。そういうことから、地球温暖化防止を進めていくことが重要になっていくのではないかと思います。

【久会長】

はい、ありがとうございます。他にないでしょうか。

【遊津副会長】

評価の方法としまして、この値の変化をグラフにされたことで、見やすくなったと思います。一歩前進かなと思います。前回もお伝えしたかと思いますが、D評価というものをどうするか。ずっとD、D、Dと来ているものがあるので、勝手には消せないとは思いますが、項目がかなり多いので無くしていても良いのではないかと思います。不要という評価になるなら、無くしていけば良いと思います。

项目的には、地域協議会も頑張っておられますので、よくやっておられると思います。野生動物などに関しても自然が多いこともあって、取り組まれていると思います。野生動物の被害というものが全国的にも広がっておりますが、この件に関しましては、県と横断的に奈良モデルなどを活用されることも良いと思います。橿原だけの問題ではないので。特に鹿の被害が多いと思いますが、奈良では鹿が殺せないところもありますが、そういったことも含めて横断的に対策していくのも方法の一つだと思います。

あと、温暖化のCO₂削減の項目ですが、これについては、見直しは来年度と言われていたので、そのタイミングかと思いますが、パリ協定の採択を含めて国のCO₂削減量 2030 年度に 2013 年度比マイナス 26%削減と大きく変わりました。その辺も踏まえて、県は環総合計画の中で 30.9%削減すると明記され、他市町村も似たような削減目標を掲げられました。奈良県で大きめの市である橿原市が率先して低炭素に向けての取り組みをしていてもらいたいと思います。着々と実行はされていると思いますが、お願いしたいと思います。

【事務局：井上】

今、副会長からもお話がありました『D評価が非常に多い』と、過去からDが続くという傾向について『D評価』の項目をどのように取り扱うかということで、コメントをさせていただきました。

評価をする際に、同じ者がするというわけではないので、評価基準が定まっていない中、評価の結果が変化するという所が多々ありました。まず、評価が『上がった』『下がった』となる理由や原因を求めようと言うところです。そういった記述を求めて、精査していこうと考えております。見直しの時期ですが、『橿原市総合計画』が2年延びるということで、それに伴って『橿原市環境総合計画』の方も足並みを揃えて2年延ばそうという計画をしております。その2年の間に評価の精査が出来ることとなりますので、それを元に見直しをしていきたいと考えております。どちらにしてもまずは、理由を明確化していきたいと思っております。

【久会長】

はい、よろしく申し上げます。P D C Aサイクルによる進行管理をしていくためには、必要不可欠だと思っておりますので、よろしく申し上げます。

毎年同じ話をさせていただいておりますが、Dの連続を解消できないということの一つの原因が、限られた職員だけで業務を回していると手が回らないということになっているのではないかなと思います。特に啓発事業や情報交流の事業はそこまでお金が掛かる事業ではないはずなのに、動かないというのは掛けられる職員の手間の問題でないかと思われます。そういう時には職員だけで抱え込まずに市民の手を借りるということで、仕事をどんどん外へ出すということも有りかなと思います。

情報提供になるか分かりませんが、近畿大学と生駒市が連携協定を結んでいる関係もあって、先日生駒市の環境モデル都市推進課から「小学校の出前講座をしているが、なかなか声が掛からないので、大学生の知恵をお借りしたい」と連絡がありました。大学生に声を掛けたところ、8名ほどが手を挙げ、講座の企画をして来年度以降は大学生が小学校へ行き、出前講座をするというプログラムが動きつつあります。やはり、色々な方の手を借りるということが、職員の負担を減らしながら実行性を高めていくということもあるのかと思います。また、八尾市は年に1回開催されている環境フェアを近畿大学生が実行委員になって回しております。近畿大学と大阪経済法科大学の学生を中心に100名くらいの学生のチームが出来まして、環境フェアを担っています。今は環境意識の高い学生が増えてきておりますし、ボランティア精神も旺盛です。ぜひともそういう若い人たちを含めた手を借りるということをもっともっとやっていくのもありがたいと思います。

今井とかの歴史的町並みの所には兵庫県立大学とか兵庫県立医科大学とかが色々入って、色々お手伝いしてくださっているはずなので、環境の方も、もっともっと手を借りてみてはどうかと思います。

【小西委員】

『エコフェスタ 2016』の時には、奈良県立大学の学生が手伝いに来てくれました。よくやってくれたので、ボランティアは高齢者が多いので、これからは若い人の感性や力が必要だと思しますので、大学生に期待をしております。

【久会長】

ありがとうございます。

これも情報提供ですが、エコネット近畿という近畿の環境団体を繋ぐNPOの理事もしているのですが、3年ほど前から理事の年齢も若返らせていただいたこともあって、毎年1回環境団体交流会をやっております。各団体さんから情報交換で集まってくるのですが、去年は100人ちょっと集まった中で、大学生が40人くらいでした。彼らはすでに、自分たちで環境団体を作り活動されている積極的な大学生でした。そういう凄いパワーを感じる大学生が増えてきております。そういう輪の中に関わっていただき、若い大学生と繋がりを持っていただいて、巻き込んでいく

ようなこともどんどんしていただければ良いかと思えます。

他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、今までのことを参考にさせていただいて、来年度はより良い評価がいただけることを期待しております。よろしく申し上げます。

それでは続きまして、新しい内容としてご提示することになりますが『生物多様性飛鳥地域戦略《素案》』につきまして進めたいと思えますので、事務局の方からご説明させていただきます。

【昆虫館：井上】

■生物多様性飛鳥地域戦略《素案》（資料5）

上記資料の説明

【久会長】

はい、ありがとうございます。何かご意見・ご質問はありますか。

【榎村委員】

とても良く作られた素案だと思います。生物については自治体の境界というのがないわけですし、生物多様性は色んな人と一緒にやっていかなければならないということで、地域連携保全活動センターということで『飛鳥・人と自然の共生センター』を開設されたということも非常に分かりやすいです。また、明日香村と高取町と共同で進行管理されていくということと、庁内組織も生物多様性飛鳥地域戦略推進委員会ということが書かれていて、非常に組織としてうまく書かれていると思います。今度は実働をどうさせていくのかなと思いました。あともう一つお伺いしたいことですが、19pの『生物多様性石垣協定推進』というのがありますが、沖縄県の石垣市と檜原市の生物多様性の協定ということですが、石垣市とはどういう理由で協定をされたのか教えて欲しいです。

【昆虫館：井上】

お褒めいただきありがとうございます。奄美大島のほうでは、5市町村でこういった形の連携した計画があるのですが、本州の中では各自治体では作られておりますが、3市町村の連携というのは今回が初めてです。ただ、実際策定していく中では難しいところもありますが、今後生物のそれぞれの命の問題についてや、檜原明日香高取関係なく猪は動き回りますし、そういった対策についても各自治体だけではなく、連携を持ちながらやっていけたらと思います。そういうことで、この共生センターや庁内の推進体制を活用していきたいと思えます。

あと、先ほど榎村委員から質問された石垣市との協定ですが、実は檜原市昆虫館には500平米の大温室があります。その中に蝶を飛ばしておりますが、その蝶が石垣八重山琉球列島の蝶とい

う関係で石垣市とは以前から連携はしておりましたが、今後石垣市がかなり自然の縛りをかけてくるということで、今後石垣市の蝶が取れないという事態が起こることが想定されております。そういったことを防ぐためにも協定を結ぶことで、今後も継続的に石垣の蝶や植物をこちらに展示できる形の協定もありますし、両市は 1500 km 離れておりますので、お互いにこの計画は地域活性化も含まれておりますので、人が行き来をして、お互いの色々な産物を知るといような形の、生き物だけでなく観光交流とかも含めて今後進めていく計画をしております。まだ細かい事業については書いてはおりませんが、生物多様性をきっかけに連携していくという形の協定となっております。

【久会長】

私も『飛鳥・人と自然の共生センター』は非常に良い発想だと思いますが、昆虫館の業務の上に、人が就かずにセンターも業務が乗っかってくると、これは大変なことだと思います。人とお金の担保があってセンターが動き出すというものでしょうか。

【昆虫館：井上】

先ほどお伝えしました、推進協議会の中に共生センターを立ち上げております。現在のところは、まだ小さな予算ですが、しかし各自治体から予算を取りにいくというのも、難しくなっております。逆に共生センターというものが色々な組織が入ることによって、国の補助金や民間の補助金でかなり活用できるものがありまして、現在も共生センターの形で補助金を取ったりしております。来年度以降も 100 万 200 万単位の補助金は、確保できる見通しです。この共生センターで、自然の竹を使ったり、地域の井戸水を飲料水として販売できるような水にできないだろうかなど、色々な取り組みをしております。自然を守ることも大事ですが、やはりその周辺で住んでおられる地域住民の方が生き生きと活動できる形で、そこにはやはりお金というものが無いと、なかなか続いていかないと思いますので、やはり活動しながらもそういった楽しみや、少なくとも職員が身銭を切らないというような事業にならないように、補助金を活用していきたいと思っております。

【遊津副会長】

僕は大賛成です。樺原市あたりがこういったことを実行していくべきだと、前から思っていました。県の生物多様性がありますが、ここの関連はどういう感じでしょうか。

【昆虫館：井上】

実は、この協議会を立ち上げるにあたっては、27 p の推進協議会の方ですが、3 市町村長と飛鳥ニューツーリズム協議会の会長と 3 市町村の広域の事務局長の 5 名で、現在は協議会の会員となっております。奈良県は生物多様性の奈良戦略を 25 年に作成されまして、当然連携を取っていかないといけないと思い、協議会に入っただけじゃないかとお願いにあがったのですが、まずは会員になるということは負担金が必要になるのではないかとということで、まずはお金のことを言

われ、そういうことではないとお伝えし、アドバイザーということで、意見をいただきたいということをお願いをしましたが、二の足を踏まれまして、今回については、アドバイザー程度に収まっているというのが現状です。

県も戦略がうまく回っていないという話ですので、今後は戦略もできてきますし、色々な事業でも県の関係機関は入ってきますし、地域の土木事務所はかなり協力的ですが、なかなか県庁の本課の方が動かないのが正直なところですが、ただ、この辺はどんどん突いていき、県にも協力をいただくように、来年度以降はしていきたいと考えております。

【遊津副会長】

温暖化関係についても、県の動きが大変乏しいと言いますか、ほとんど動いてない状況ですので、逆にここをきっかけに、突き上げて欲しいと思います。生物多様性自身は、温暖化の方の適応策の関連に掛かってきますので、うまく絡めていけたら補助金も取れると思います。大変でしょうけど、補助金を取って逆に県を引っ張ってこれたら良いと思います。個々の市町村は大変困っておりますし、県自身もどう始めていけば良いか分からない状態だと思います。私は今、原始林の保全について県から依頼を受けて活動しておりまして、原始林は県の一番の文化シンボルです。その問題に鳥獣鹿やナラ枯れや外来種などがあります。県の文化シンボルが危機的状況になっておりまして、県をあげて対策していかないといけないと思います。その危機的状況が温暖化と結びついておりまして、ナラ枯れの被害も高くなっております。県の政策の大きな7本柱の一つに生物多様性がありますので、センターにも何か結びつけてもらったり、会長にも動いていただいたりして。僕は賛成です。頑張ってくださいなと思います。

【久会長】

はい、ありがとうございます。実は、去年から奈良県の環境審議会の会長もやらせていただいておりますので、その辺りで少し圧力も掛けられそうかなと思います。きれいに暮らす奈良県民協議会というのも作りました。県が作る協議会には、入れ入れと言う割には、こちらから呼びかけたら入らないというのは、若干腑に落ちない点もありますので、こちらからも声をかけたいと思います。そして、さらに飛鳥ニューツーリズムは、私も一緒に活動しておりまして、明日香商工会議所が後ろについておりますので、お金儲けが非常にうまいと思います。うまくお金儲けにも繋がるようなお知恵もいただきながら、回していくと、ご指摘のあった持続性もうまくいくのかなと思います。

ちなみに参考になるか分かりませんが、兵庫県の鳥獣対策は、年間かなりの量の鹿などを捕獲をしており、その肉を活かして県が先導し『鹿カレー』のレトルトを販売しています。そういったことをされている自治体もあるので、単に鳥獣対策をするだけでなく、商業ベースにも回っていくという戦略も良いと思います。参考までにお伝えさせていただきました。

【西村委員】

とても良い戦略だと思いますが、やはり実行となると色々なことが重なって難しいのだろうと思

います。私は、ユネスコの事務局をしておりますが、ユネスコでも生物多様性・地球環境保全というのは、大きな課題の一つになっています。ユネスコでいくつかイベントを開催していることでもありますので、飛鳥地域でこういうことを取り組んでいるという啓発するために、ブースと一緒に設けるとかできるのではないかと思います。良かったらまた事務局にご相談ください。橿原市にもユネスコスクールに指定されている中学校がいくつかありますので、そこらで何か一緒にできないかと教育委員会と話をされてみてはどうでしょうか。やっぱり今、子ども達が自然と触れ合う機会が少なくなっていると思うので、自然の中で遊ぶことの大切さをもっと啓発していかないといけないと、私たちユネスコも思っています。小学校で色々と出前講座をされたり、私は本の読み聞かせをさせてもらっていますが、学童クラブでも結構イベントをされることもありますので、そういう場、子ども達が集う場所で、こういうお話をさせていただいたり、関連した催しをされると良いのではないかと思います。

【昆虫館：井上】

ありがとうございます。西村委員に言っていただきましたように、子ども達の教育というのは策定委員会でも毎回のようによく言われております。環境教育ということで一応今は、小学校3年生にはモンシロチョウ、4年生には植物、5年生がメダカ、6年生が化石を使った地殻変動、地震関連です。そのようなプログラムを昆虫館で考えておまして、今年度は高取ではスタートさせておりますが、来年度以降では飛鳥地域の学校で橿原では小学校は16校、明日香と高取は1校ずつの18校に投げかけて、進めていきたいと計画しております。しかし、教育現場というものは、教師によってかなり差があります。こういったことに熱心な先生は授業にもどんどん取り入れていただけます。ところが、そういうものは入ってほしくないという先生の考えもありまして、そういった場合はなかなか学校自身にも入り込めなくなります。私も環境保全課の頃に環境の授業をさせていただいておりましたが、毎年のように呼んでいただける学校もあれば、何度声を掛けても全く呼んでいただけない学校があります。その辺りは教育委員会ともタイアップして、希望というのではなく強制的に受けていただいて子ども達の教育をどんどんしていきたいと思えます。以前私が聞いたことですが、西村委員もお話しされておりましたが、自然に触れ合う子ども達が少なくなっていて、自然に触れ合った子ども達は、成長時期に素行が悪くなりやすいと言われております。やはり自然に関わった子ども達は素直なところがあると聞いたことがあります。昆虫館に来られる子ども達も生き生きとしているように思います。大きい温室の中で蝶を見て楽しんで帰っていただいています。また、何度も来られる方もいらっしゃいます。そういった拠点を昆虫館の他にも、地域の公園等にフィールドを作って、また明日香村でも飛鳥川を使った授業ができるかなと思います。その辺りは、戦略をベースに実際にどういった授業をしていくかというのは、来年度からになるかと思いますが、実行していきたいと思えます。

【久会長】

ありがとうございます。

やってくださらない学校を動かすことは、なかなか難しいですが、逆にやってくださった学校で

どんどんPRしていくと、保護者の方から『なぜうちの学校はしないの』という声が出てくると
思います。そういう頑張っている所から引き上げてもらうという方法もあるのかと思います。

【榎村委員】

生物多様性地域戦略で『3市町村が』という話ではありますが、12pに書かれてあるAからDの
基本目標を見ますと、生物多様性をキーワードにして、地域の土地、緑地計画も含めてどのよう
に作っていくかということが実は書かれているのではないかと思います。県が入りにくいと言わ
れていましたが、県は観光にもものすごく力を入れられています。ここに書かれていることは、生
物多様性のことはもちろんですが、どちらかと言うと観光に寄与するような内容だと思います、
全てが。その辺から、県の持ちかけていくという方法もあると思います。生物多様性と聞くと「あ
まり関係ない」と思われる方がたくさんいらっしゃいます。特に榎原市を拝見しておりますと、
そういう色彩はすごく強いわけですね。明日香も日本で初めて古都保存法によって、ある意味凍
結された所で、あの自然環境がなければ明日香というのは有り得ないわけです。榎原もそうす
が、ここで生物多様性の地域戦略が発揮しないと意味がない、価値がないような所になってしま
うと、奈良において一体であるということですね。強調されて、観光の方であれば県もお金は出
されないかもしれませんが、話に乗って来られるのではないかと思います。今、農業大学校も
改装されて、新しい建物になりましたね。レストランも出来たりして、まさに地産地消の食材を
使ったものを出されるのではないかと思います。ただ、あそこは桜井になっちゃいますね。でも、
地域的には引っ付いているように見えますね。3市町村なので、桜井は入らないかもしれませんが、
何か戦略的にそういうことも考えるのも良いのかなと思います。この素案を見ながら思いま
した。

【昆虫館：井上】

正直言いますと、他の2町村の戦略は、生物多様性の保全というところがウェイトを占めてい
ると思いますが、榎原市に関しては、どちらかというところと正直言いますと、昆虫館周辺とか明日香高
取も含めて人口増も望めなく、やはりこれから疲弊していくという中で、このまま放っておくと、
おそらく限界集落がどんどん出来てくるのではないかと一番の危惧があります。そこでやは
り観光とか、中国韓国含めまして、海外からのお客様をお招きしたいと思います。移住までは進
められないとは思いますが、そういった中でも人が寄り集まって、お金を落としてもらおうとい
う流れですね。そこで観光をどうするか、例えば超小型モビリティ『ミチモ』を活用していくとか、
色々なことを考えていきたいと思います。また、榎村委員がおっしゃっていただいたように、県
の観光担当にも行っていきたいと思っています。あと、農業大学校のレストランのことをおっしゃ
っていただきましたが、実は私はオープン前に試食をさせていただきました。地産地消で高
価なレストランかなと思いました。桜井市ではありますが、そちらにもまだ実現はしておりませ
んが、昆虫館周辺にも農家の方がたくさんおられるので、そちらのお野菜も使ってもらえないか
と働きかけております。しかし、やはりメインは桜井市になるので、桜井市のお野菜を使って、
地産地消のメニューを作っておられます。その中に少しずつでも、飛鳥地域のブランドを使って

いただけるように図っていきたいと思います。3地域でやっておりますが、桜井は隣地ですので、その辺りは拘らずにどんどん入っていきたいと思っております。

【久会長】

ありがとうございます。

ご承知の方も多いかと思いますが、歴史的風土保存法というのがありまして、明日香村だけ特別になっています。明日香が指定される時に明日香村側から国に「歴史的風土保存法も良いが、明日香村はこれから下水道等の生活環境の整備をしていく必要がある。そういったことも整理して法律を策定してほしい。歴史的風土保存だけでは難しい」というクレームがきました。そこで名前も『明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法』というように、生活環境整備がついています。その延長で言いますと、今後3市町村も単に自然・歴史を守っていただくだけではなくて、それを未来にどうやって繋げていくためには、観光も含めてお金も稼いで地域の活性化も取り入れていかなければならないと思っております。それがちゃんと戦略に入っているということで、しっかり動かせるようにしていけたらと思います。

他どうでしょうか。

なければ、私の方からもう1点お話しさせてください。この中に随所に万葉集が出てきていることが、特徴かなと思います。すごく分かりやすくなります。「何を守るんだ」という話の時に、万葉集を手掛かりに環境を守っていく、整備していくということが、非常に分かりやすいと思います。そういう意味では、20pと21pのリーディングプロジェクトの中にもフジバカマの再生プロジェクトや薬草を活用した万葉の里づくりプロジェクトがありますので、こういう非常に特徴のあるものが入っていることは、とてもうまいと思います。ちなみに、歴史的風土という中にはこういう自然環境も含めてあるはずで、『万葉集時代の風景をもう一度再生あるいは維持していこうじゃないか』というキャッチフレーズもあっても良いかと思ったり、そういう意味では万葉集の中にどういう自然が詠われているかを再度チェックしていただいて、それを手掛かりに生物多様性を考えていただくというのも良いのではないかと思います。

これはまた情報提供ですが、近畿大学生は昔、万葉集に詠われている花を調べていたことがあって、今は花と言えば桜ですが万葉集で詠われていたのは、萩の花です。そういう意味では万葉集時代と今の時代では、花に関する書き方が全然違うことが分かりました。この地域で詠われた万葉集を手掛かりに、その辺りの自然はどういう感じで詠われていたのか、今はあるのか再生するためにはどうすべきなのか、そういったことを詰めていただくと、この地ならではの生物多様性地域戦略ができるのではないかと期待しております。

他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、この生物多様性地域戦略も時期を見てどんどん報告もしていただきながら、意見交換を深

めていきたいと思えます。

それでは、生物多様性の素案の案件も終わって、その他にいきますが、せっかくの機会でございますので、委員の皆様からその他で何かございますか。事務局の方からは何かありますか。

それでは、以上で本日の案件は全て終了させていただきました。

どうもありがとうございました。

それでは事務局の方からお願いします。

【事務局：広瀬】

久会長始め、委員の皆様方につきましては貴重な審議ありがとうございました。

最後になりますが、環境づくり部長北嶋よりご挨拶申し上げます。

【事務局：北嶋】

環境づくり部長の北嶋でございます。

本日は限られた時間の中、色々なご意見を賜りまして誠にありがとうございます。

生物多様性について、色々なご意見をいただきまして、また今後これにつきましても発展させていきたいと思えます。

最初の環境総合計画につきましては、色々な昨年度からの問題点等がありまして、『D評価』の分をどのように考えていくかということも踏まえまして、今後檜原市の第3次総合計画が2年延伸になりますので、それに伴いまして整合性を図りながら、環境総合計画の見直しに着手していきたいと考えております。また、見直しの際につきましては、委員皆様のご意見を賜りながら、より良い計画を行い、実効性のあるものへ変更していきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

最後になりますが、この委員につきましても、今年と来年ということでご迷惑をお掛けしますけれども、よろしく願いいたします。

本日は、どうもありがとうございます。